

陳 情 文 書 表

令 3 陳 情 第 2 1 号	令 和 3 年 1 1 月 1 0 日 受 理
件 名	児童生徒の心身の健全な発達のため、公立小・中学校と公立幼稚園における新型コロナウイルス感染症対策の中止等を求める陳情
陳 情 者	秦野市南矢名 1 9 2 5 番地 1 号 吉田 玲子 ほか 7 8 人
陳 情 の 要 旨	
<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、1年半以上子どもたちは小・中学校や幼稚園でマスク着用やソーシャルディスタンスの確保、消毒の徹底、昼食時の黙食、行事の縮小や延期・中止、授業や教育内容の必要以上の制限など、大人よりも厳密なルールの中で生きています。大切な命を守るため、感染しない、させないために強いられているこれらのルールですが、それらが子どもたちの今しかできない経験や学び、発達を妨げ、失っているものも多いことは明らかです。</p> <p>以下に、4つの感染症対策におけるデメリットや教育現場の現状を記載致します。</p> <p>(1) マスク着用について</p> <p>口呼吸の常態化による免疫力低下、酸素欠乏、頭痛、他人の顔を見る機会がないため表情を学ぶことや言葉の習得機会の減少など（資料 a）。</p> <p>1年半以上もの間、先生の顔や友人の顔を見たことがない学校・園生活は健全でしょうか。家族以外の人々の表情を見る機会がないなど、これらが子どもたちに与える今後の人格形成やコミュニケーション力への課題は重いでしょう。また、国は一切強制していなくとも子どもたちは大人の指示がなければマスクを外せず、指示があっても周囲の目が気になり外すことができないのも現状です。更にマスクを外している時は会話を控える、人と一定の距離を保つ指導は子どもたちにとっては強い圧力となり、マスクを外す選択から遠のくことも事実です。これらを根拠に、「マスクをしていますが、していなくても間違っていない」そんな当たり前の社会を、子どもたちの世界だけは早急に取り戻してあげべきではないでしょうか。</p> <p>体育時において、これまでも現場では外すよう指導してきていますが外せる生徒は極僅かです。運動時のマスク着用は命の危険があり、スポーツ庁でも「身体へのリスクを考慮し体育の授業時に着用は必要ない」と提言しています。</p> <p>(2) 消毒について</p> <p>子どもたちにとって自然界の微生物と共存し、耐性を付けることは自己免疫力を高める上で大切な要素です。手指の消毒により常在菌をなくしバリア機能を低下させ、教室中の徹底した消毒によりウイルスへ触れる機会を激減させ</p>	

る行為は、逆に感染リスクを高める危険性があります（資料b）。

(3) 黙食について

「おいしいね」、この一言が食事を共にしている子どもたちの間に共感や豊かなコミュニケーションを生み、調理してくれた方や生産者への感謝の気持ちにつながります。苦手な食べ物も、前に座る子がおいしそうに食べる姿を見て頑張ってみることもできるでしょう。しかし、それらの機会が一切絶たれ続けている子どもたち、食育とは何なのでしょう。更に、文部科学省の学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～（2020.12.3Ver.5）第3章3.「給食等の食事をする場面」の項目には黙食との記載は一切ありません。この1年半、休まず一方向を向き黙食し、話をしたら注意される環境で食事をしている大人は少ないでしょう。しかし、少なくとも市内の児童・生徒は皆、この矛盾の中、大人の指示に従い続けています。

(4) 行事の縮小や延期・中止、授業や教育内容の必要以上の制限について学校は基礎学力を身に付けるだけでなく、人と関わる力や主体的に行事参加することで自己肯定感を高め合い、大きな達成感を得ることができます。その絶好の場である学校行事が縮小、延期や中止を繰り返していますが、それは子どもたちの心にどのような影響を与えるのでしょうか（資料c）。

また、市内の公立小・中学校、公立・私立幼稚園の授業や教育内容、行事等の現状を別紙に記載しています（資料d）。それらが果たして本当に子どもたちの心身の健康を守っているのか、自由を奪っていないか見ていただきたいと思います。

新型コロナウイルス感染症による10代以下の重症者は1人、死亡者は未だ0人です（資料e）。しかし、休校措置が続き、マスク着用を促し、自由の少ない学校生活を送り続けている裏で、昨年度の児童・生徒の自殺や不登校は全国でも過去最多となりました（資料f）。本末転倒とも言える状況が数字となって出ているのに、子どもたちはいまだ普通の学校・園生活を送ることができていません。顔を見て会話し、自由に遊んで人と触れ合う、そんな当たり前のことができずにいます。それらが子どもたちの免疫力を高め、コミュニケーション能力を培うための大切な要素であるのに、その機会が絶たれているのです。そして、子どもたちはこの状況をどう感じているのか、どうしたいと思っているのか、子どもたちの声を聞く機会がなく、子どもたちの心の声は置き去りになっています。

人間は地球上に何億と存在する微生物と共存しています。そして新型コロナウイルスに限らずこれからも様々なウイルスが流行することは歴史的に見ても明らかです。そんな未来を見据え、子どもたち自身に備わっている免疫力を生かす働きかけをすることも必要です。マスクやソーシャルディスタンス、ワクチンなどによって新型コロナウイルスだけへの表面的な対策をすることよりも、自己免疫力や人間力を高めることが子どもたちにとってこれから生きる上で大切に

はないでしょうか。

そして、何よりも、子どもたちは健康かつ人間らしい生活を送り、心身ともに健康に成長できる環境が保証される権利があります。自由に文化や芸術活動に参加できる権利があります。子どもたちにとって最も良いことを大人たちが第一に考え、社会の都合を子どもに押し付けることなく、子どもたちの意見は尊重される権利があるのです（児童の権利に関する条約を参照）。今の子どもたちはこれらの権利を十分に得られているのでしょうか。

未来を担う子どもたちがウイルスを過剰に恐れることなく、これまで通り素顔で、人と密に接することを恐れない社会に生きられること、今しかできないことを当たり前、自由に思い切り経験できる学校・園生活が送れることを心から願い、下記について陳情いたします。

陳情事項

- 1 児童・生徒のマスク着用の自由化をお願いします。そして、不着用時の会話禁止や身体的距離の確保等の条件を加えないようお願いいたします。また、マスク着用時の熱中症以外のデメリット、体質によってマスクができない児童・生徒がいることについて、多角的に児童・生徒や保護者へ周知をお願いします。
- 2 季節や屋内外問わず体育時はマスク着用を原則禁止とし、児童・生徒や保護者への周知をお願いします。
- 3 消毒の自由化をお願いします。消毒のデメリットについて、多角的に児童・生徒や保護者へ周知をお願いします。
- 4 黙食の中止をお願いします。
- 5 行事は従来通りの実施をお願いします。
- 6 授業、教育内容は従来通りの実施をお願いします。
- 7 免疫力を高める方法やその大切さを、児童・生徒や保護者へ伝えられる環境作り（日々の教師と児童・生徒の会話や、授業や保育時間内にて、また、プリントの配布等）をお願いします。